近世岡崎城主一覧表

（出典：岡崎市教育委員会資料）

城主名	生年	就封年	没年	領高（石高）	備　　考
田中吉政（たなかよしまさ）	天文17（1548）	天正18（1590）	慶長14（1609）	5万→10万	西尾城主を兼帯。総堀、城下町を造成し総構えに。矢作川築堤。筑後国柳川32万5千石に転封
前本多家（ほんだ） 本多康重（やすしげ）（豊後守）	天文23（1554）	慶長6（1601）	慶長16（1611）	5万	上野国白井2万石より入封。伝馬町を創設。大林寺郭堀を拡幅整備し、東海道を北へ迂回。
本多康紀（やすのり）（伊勢守→豊後守）	天正7（1579）	慶長16（1611）	元和9（1623）	5万	元和3年（1617）三層三階で天守を再建。白山曲輪などを整備。
本多忠利（ただとし）（伊勢守）	慶長5（1600）	元和9（1623）	正保2（1645）	5万5千	籠崎堤を築く。菅生門から稗田門にかけて石垣構築。3代将軍家光饗応により5千石加増。
本多利長（としなが）（越前守）	寛永12（1635）	正保2（1645）	天和2（1692）	5万5千	家督相続1ヶ月後に遠江国横須賀5万石へ転封。転封後、久能山東照宮を修造。
水野家（みずの） 水野忠善（ただよし）（監物）	慶長17（1612）	正保2（1645）	延宝4（1676）	5万	三河国吉田より入封。籠田・松葉総門、木戸を設置。城下の士庶区分し、手永制で農村統治。
水野忠春（ただはる）（右衛門太夫）	寛永18（1641）	延宝4（1676）	元禄5（1692）	5万	寺社奉行・大坂仮城代。六所神社、高月院を修造。検見引・木綿何割引など藩財政改革を行う
水野忠盈（ただみつ）（豊前守）	寛文2（1662）	元禄5（1692）	元禄12（1699）	5万	矢作橋、大樹寺、松應寺を修造。三河国絵図を作成。
水野忠之（ただゆき）（和泉守）	寛文9（1669）	元禄12（1699）	享保16（1731）	6万	京都所司代・老中。1万石加増。享保の改革を行う。宝永2年（1705）水害で家臣に救済金支給
水野忠輝（ただてる）（監物）	元禄4（1691）	享保15（1730）	元文2（1737）	6万	矢作橋修営。享保の大飢饉時に領内の餓死者を出さず、8代将軍吉宗より賞詞を受ける。
水野忠辰（ただとき）（監物）	享保9（1724）	元文2（1737）	宝暦2（1752）	6万	老臣層の除外により岡崎騒動が起き、藩政改革が挫折。徹底した倹約と緊縮財政で善政を行う
水野忠任（ただとう）（和泉守）	元文元（1736）	宝暦2（1752）	文化8（1811）	6万	宝暦3年幕府の浄瑠璃・稗田米蔵の臨時検視。肥前国唐津6万石へ転封。
（松井）松平家（まつだいら） 松平康福（やすよし）（周防守）	享保4（1719）	寛延12（1762）	寛政元（1789）	5万4百	大坂城代・老中。明和の洪水で幕府より5千両借財。下総国古川より入封し石見国浜田へ転封
後本多家（ほんだ） 本多忠粛（ただとし）（中務大輔）	宝暦9（1759）	明和6（1769）	安永6（1777）	5万	給米削減を実施するが、風水害の頻発、東海道宿駅の諸使節接待の負担の累積で財政悪化。
本多忠典（ただつね）（中務大輔）	明和元（1764）	安永6（1777）	寛政2（1790）	5万	藩財政困窮により「所替願」「預地願」を出すが幕府に認められず、1万両の拝借金を受ける
本多忠顕（ただあき）（中務大輔）	安永5（1776）	寛政2（1790）	天保9（1838）	5万	家老中根隼人ら緊縮政策による寛政の財政改革を行うが、家老都筑氏らの反対で完遂せず。
本多忠考（ただなか）（中務大輔）	文化2（1805）	文政4（1821）	明治12（1879）	5万	藩士禄高を減歩する。幕府より居城修復に3千両、洪水により4千両借財する。
本多忠民（ただもと）（美濃守）	文化14（1817）	天保6（1835）	明治16（1883）	5万	京都所司代・老中（2回）。加茂一揆に幕命を受け出兵し鎮撫する。安政の財政改革に着手。
本多忠直（ただなお）（中務大輔）	弘化元（1844）	明治2（1869）	明治13（1880）	5万	明治2年（1871）版籍奉還。 岡崎藩知事。藩校允文館、允武館を開設。